



ニューズレターくまもと

Vol.131
2023.Winter

NEWS LETTER KUMAMOTO

■ 発行:一般財団法人熊本市国際交流振興事業団 〒860-0806 熊本市中央区花畑町4番18号(熊本市国際交流会館)
■ Publisher:Kumamoto International Foundation(KIF)TEL:096-359-2121 / FAX:096-359-5783
e-mail:pj-info@kumamoto-if.or.jp URL:https://www.kumamoto-if.or.jp

★CONTENTS★

P1 年頭のご挨拶

P2 多文化共生月間

P3 多文化共生月間イベント告知

P4 同上

P5 ボランティアワークキャンプを終えて

P6 インターン活動を振り返って

P7 世界を知る～フランスからこんにちは！～

P8 ちょっと日本語、賛助会員募集

新年のご挨拶

謹んで年頭のご祝詞を申し上げます。

旧年中は、皆様方より多大なご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。



県下でも第8波と称される新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、年末にはリスクレベルが引き上げられる状況もございましたが、昨年とは行動制限が行われない中に於いて、しっかりと感染対策を講じることである程度、事業を実施することが出来た年でもありました。

しかしながら、感染拡大の波が大きくなるにつれ参加を見合わせる人が多くなるなど、思うように人が集まらず延期に追い込まれる事業も散見されました。以下、本年度の取り組みの一部を紹介します。

国際交流会館2階にある熊本市外国人総合相談プラザでは、近年、急増するネパール人たちのために10月よりネパール語相談日を設けました。また、来熊する外国人も技能実習生に加え、より高度なスキルを持つ技人国ビザで入国するミャンマーの方々も増加傾向にあり、もちろん、菊陽町に建設中のTSMCに伴い徐々に台湾からの方々も増えつつあります。来熊する外国人が増えれば、求められる支援も多岐に亘ることが予想されますので、今後の動向を見守りつつ出来る支援を検討していきたいと思っております。更に、国際交流会館内外6か所で開催している地域日本語教室活動も再開することが出来ましたので、徐々にではありますが外国人の方々へ日本語を学ぶ機会を提供できています。加えて大津町、高森町、南阿蘇でも日本語教室開設に向け準備を進めつつあるので、当事業団でも、それぞれの地域に出向き、教室の立ち上げ、及び運営のお手伝いをしています。

その他、高校生たち実行委員が主体となって夏休みに実施している「国際ボランティアワークキャンプ」も3年ぶりに阿蘇の地に於いて開催することが出来ました。(5ページに詳細を報告)。

一方、本年は熊本市と仏国エクサンプロヴァンス市との交流が始まって10年の節目(2013年2月16日締結)を迎える記念周年でもございます。来年度にはなりますが同市を紹介するイベントを実施していく予定です。

その他、本年の大きな出来事としてスポーツ関係では3月に第5回ワールドベースボールベースボール(WBC)を皮切りに、7月には第19回FINA世界水泳選手権福岡大会(世界水泳選手権)、サッカー女子ワールドカップ、9月にはラグビーワールドカップ フランス 2023、更に翌2024年には、パリ・オリンピックも開催されますのでスポーツ観戦好きの方々には当面楽しみが続くことでしょう。

最後になりますが、未だ収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症が本年こそは収束することを祈念し、引き続き感染対策を講じながらwithコロナとの共存を目指し事業に取り組んで参ります。文末になりましたが、皆さまの本年のご健康とご健勝を心よりお祈りしつつ2023年の年頭のご挨拶とさせていただきます。

2023年1月

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

小野 友道

令和4年度「多文化共生月間」について

みなさんは「多文化共生」や「多文化共生社会」と言うどのようなイメージを持ちますか。多様な国籍、在留資格、文化背景を持つ外国人住民と日本人住民と一緒に暮らす社会などでしょうか。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で長く続いていた入国制限も解除され、熊本市でも外国人住民数は増加しています。街中のコンビニエンス・ストアで働く（アルバイトする）外国人店員や、専門学校に自転車で通う留学生、市電や商業施設の中などで外国人旅行者を見かけることも増え、外国語を聞くことも多くなりました。

今後は熊本（日本）で学ぶ留学生だけでなく、日本で働く外国人労働者数も増加していきます。様々な立場の外国人住民が増加する中、多文化共生社会実現のためには地域住民と外国人住民が繋がり、地域社会の構成員として共に生きていくことが重要と考えられます。

平成18（2006）年に総務省が策定した「地域における多文化共生推進プラン」では、「多文化共生」を「国籍や民族が異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されています。様々な国籍、文化背景を持ち価値観も違う人たちが違いを認め合い、対等な立場を築き地域社会で共に生きること、言葉で書くと簡単に思えますが、実際の社会の中で国籍、文化背景、育ち方も違う人と共に過ごすと考え、とても大変なことに思えます。

しかしよく考えると、私達は普段の生活でも「多文化共生」を実践しているのではないのでしょうか？生まれも育ちも違う人間と一緒に学校生活や社会生活を送り、会社など

の組織で働き、家庭を持つなどこれらは全て「多文化共生」と言えるのではないかと思います。

私達、事業団では様々な違いを学び、認め、楽しみながら地域住民と外国人住民が地域社会の構成員として共に生きていく「多文化共生社会」の実現の一助とするため様々な多文化共生事業を行っています。毎年2月を「多文化共生月間」と位置づけ、多文化共生に関する展示や、熊本にある外国人コミュニティの紹介、有識者を講師に招き、多文化共生社会について考える「多文化共生シンポジウム」などを開催しています。

本年度も2月1日（水）から「多文化共生パネル展」開催を皮切りに、外国人コミュニティ等が自国文化紹介などを行う「多文化サタデー」、JICA 協力隊・地域おこし協力隊の活動紹介、バザー等を行う「協力隊まつり in Kumamoto 2023」など様々な多文化共生関連事業を開催します。同月19日（日）に予定している「多文化共生シンポジウム」では在日外国人の子どもの教育権保障、自治体の多文化共生政策立案、人権研修、スクールソーシャルワークなどの活動に幅広く従事されている特定非営利活動法人コリアNGOセンター事務局長の金光敏氏をお招きし、「地域での外国ルーツの子どもの教育を考える」をテーマに基調講演を開催します。講演後、熊本の外国ルーツの子どもへの日本語教育の現状報告、現在作成している外国ルーツの子ども向け学校行事ガイドブックなど紹介する予定です。

詳しくは次ページにて紹介していますので、ご覧いただければ幸いです。



令和5年2月 多文化共生月間イベント紹介 in 熊本市国際交流会館

私ども熊本市国際交流振興事業団では、毎年2月を「多文化共生月間」と位置づけ、外国人住民との共生社会の実現を目指し様々なイベントを企画しています。是非、ご来場いただき、外国人の方々と触れあい、知り合えるきっかけづくりにしませんか？

○ 多文化共生パネル展示（無料）

熊本市の外国人住民状況、熊本市外国人総合相談窓口に寄せられた相談内容、書初め書道作品等を展示します。

- ◆ 開催日時：2月1日（水）～2月28日（火）
※2/13（月）、27（月）は休館日
- ◆ 開催場所：1階エントランスホール



○ 多文化サタデー（無料・要予約・各30名募集）

多文化サタデーでは、外国人コミュニティの方々にお集まりいただき、自分たちの活動紹介を始め、自国の文化紹介、異文化体験など通じて相互に交流するものです。興味があるコミュニティはありますか？

【台湾文化紹介】

在熊台湾コミュニティによる台湾の魅力紹介と、台湾・崑山科技大学からのインターン生たちによる台湾の学生ライフを紹介します。

- ◆日時：2月11日（土）14:00-16:30
- ◆会場：2階交流ラウンジ



台湾茶の試飲あり！
写真はイメージです

【イスラム文化紹介】

熊本イスラミックセンターのメンバーがイスラム文化について紹介します。熊本でも着実に増えつつある彼らたちから直接話を聞いてみよう！

- ◆日時：2月18日（土）14:00-16:00
- ◆会場：2階交流ラウンジ



イスラム・ティーの試飲あり！
写真はイメージです

【ネパール文化紹介】

熊本にもネパール人たちが着実にコミュニティを形成しています。そんな彼らがネパールの文化や魅力を紹介します。

- ◆日時：2月25日（土）14:00-16:00
- ◆会場：2階交流ラウンジ



ネパール・ティーの試飲あり！
写真はイメージです

○ 多文化共生シンポジウム（無料・要予約・100名募集）

近年、熊本でも外国ルーツの子どもたちが増えてきました。彼らは言語や学習だけでなく、親の在留資格や経済問題、家族関係や宗教など、様々な問題を抱えています。彼らが安心して暮らし、学ぶ為には教育現場、行政、民間が協力し地域全体で支えあう仕組づくりが求められています。

今回は外国ルーツの子ども達が直面し得る課題や彼らが置かれている環境への理解・配慮を考えるシンポジウムを基調講演・事例発表の2部制で開催します。



◆日時：2月19日（日）14:00-16:30

◆会場：7Fホール

≪第一部≫ 14:05-15:05 基調講演 金光敏（キム クアンミン）氏

（略歴）大阪市生まれ、在日コリアン3世 社会教育士 多文化共生のNPO 法人役員、

Minami こども教室実行委員長を経て、現在は、常磐会短期大学兼任講師/大阪樟蔭女子大学非常勤講師、

外国人の子どもの教育支援、多文化共生のまちづくりのアドバイザーを務める。単著「大阪ミナミの子どもたち～歓楽街で暮らす親と子を支える夜間教室の日々」(彩流社、2018)をはじめ、共著も多数。

≪第二部≫ 15:15-16:30 事例発表～熊本市における外国ルーツの子どもの教育サポート事例～

（事例発表①）「熊本市教育委員会の取組事例」

発表者：熊本市教育委員会指導課 課長 福田 衣都子氏

（事例発表②）「外国ルーツの子どもへの日本語・教科指導」

発表者：NPO 法人外国から来た子ども支援ネットくまもと代表 竹村 朋子氏

（事例発表③）「外国ルーツの就学前児童への生活日本語指導」

発表者：熊本県立大学文学部准教授 秋葉 多佳子氏

○ JICA 協力隊祭り in Kumamoto 2023

JICA 海外協力隊、並びに地域おこし協力隊による活動紹介やワークショップ、ブース出展等を行います。海外に出て活動することに興味がある方、または地域おこしに興味がある方、熊本で活動されている隊員たちが一堂に集まります。是非、ご来場ください！

◆日時：2月25日（土）11:00-16:00

◆場所：1F カフェスペース、公開空地、2F 交流ラウンジなど

◆内容：グルメ・バザー模擬店、ワークショップ、ステージイベント、活動紹介展示など

≪お申込み・お問合せ≫

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団（TEL）096-359-2121

（E-MAIL）pj-info@kumamoto-if.or.jp

◆「JICA 協力隊祭り in Kumamoto 2023」に関しては JICA デスクくまもとまで
JICA デスクくまもと（TEL）096-359-2130



多文化共生月間
イベント QR コード

「第17回国際ボランティアワークキャンプ in ASO」を終えて

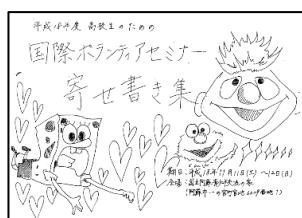
昨夏 2022年8月12日(金)から14日(日)、国立阿蘇青少年交流の家にて3年ぶりに、総勢126名(高校生97名、留学生3名、アドバイザー、講師など含む)国際ボランティアワークキャンプ(ボラキャン)を開催することができました。本年度も新型コロナウイルス感染症の影響、特に本大会が始まる8月上旬は第7波がピークを迎えていたので開催可否について予断を許さない状況でしたが、行動制限も出なかったこと、会場の閉鎖もなかったことなどから感染対策を徹底することで何とか開催に漕ぎつけることができました。まずは参加された高校生の皆さまをはじめ、学校関係者の方々、アドバイザー、講師、その他、関係者の方々に特別なご高配をいただき、深謝申し上げます。



事業団 八木(左)
と榊先生(右)
(2007年頃撮影)

この事業はタイトルにもある通り今回で17回目(17年目)となりました。思い起こせば2006年早春だったと思います。当時、玉名高校定時制教諭であった榊定信先生(故人)から、当事業団の総務課長であった八木(現常務)に声がかかり、名残雪が残る熊本から玉名への街道を車で一緒に学校へ赴き、一度見たら忘れないワイルドな風貌の同氏から、21世紀となったこれからは、豊かな未来を育むため「国際」、「ボランティア」というキーワードで高校生たちが自ら学び、考え、実践する場を作りたいので一緒にやっぴいこうではないかと熱く語られたときの様子は今も脳に焼き付いています。

同年秋、第1回目となるボラキャンは、当初「国際ボランティアセミナー」という名称で始まりました。現在と同じように高校生たちが主体的に決めていくものではなく、世界を舞台に活躍する有識者たちからの話を聞く内容だったことを記憶しています。日程や会場も阿蘇青少年交流の家や、当館2Fラウンジで開催したことを覚えています。その手作り感たっ



第1回国際ボランティアセミナー報告書

ぱりの報告書が僅かにですが現存しています。

残念ながら榊先生はその翌年3月に急逝されたため、今も構成団体である近代経営研究所、熊本ユネスコ協会、JICA九州(国際)センター、当事業団が継続に向けた協議を行った結果、第2回目から現名称の「国際ボランティアワークキャンプ」とし、高校生たちが主体的に行ってもらような基礎作りが出来ました。

開催当初はまだ現在のような夏休みではなく11月頃に開催していました。榊先生不在の中、同氏の思いに近づけるか、手探りで行っていたことを記憶しています。その後、回数を重ねるごとに創意工夫を凝らし、11月開催だったものを高校生たちが集まりやすい夏休みの開催に据え置きました。また、17年という長い歴史の中では「熊本地震」で阿蘇の会場が使えなかった年は急きよ、福岡の英彦山に変えたり、コロナの影響により中止せざるを得なかった時には実行委員たちだけで分科会活動を行い、その模様を動画に収め YouTube にアップロードしたりするなど、その時々で創意工夫を凝らしてきた経験がありますが、現在では「ボラキャン」の愛称で多くの高校生や関係者の方々に浸透するに至っていることだと思います。

これら第1回目から17回目までの報告書を事業団ホームページに掲載していますので、是非、ご一読いただければ幸いです。本事業の成り立ちは第10回アニバーサリー報告書(P2、4)にて詳しく述べています。



10周年を記念して作られた記念誌
(2016年発行)

右記 QR コードを読み取り
または、で検索
(URL)



<https://www.kumamoto-if.or.jp/kiji003256/index.html>

～インターン活動を振り返って～ 熊本学園大学2年 今村希未さん、迫口舞雪さん

2022年9月から12月まで、熊本学園大学ホスピタリティマネジメント学科からインターンとして活動された今村希未さん、迫口舞雪さん両名に活動の振り返りと感想を寄稿してもらいました。

《インターン活動について（今村さん）》

熊本市国際交流会館での主な活動は、イベントチラシの作成やイベントの準備、片付け、アンケート調査、データ入力でした。11月は大きなイベントが2週続けてあり、その準備を進めながら日常のイベントや仕事をするのは大変でした。しかし、忙しくても初めてのことが多かったため、楽しく準備することができました。また、一生懸命頑張った分、当日のイベントは3か月の中で一番楽しい思い出になりました。



《インターンを終えて》

様々な経験をさせて頂いたおかげで、自分の得意・不得意や、どんなことが好きで嫌いなのかがはっきりして、自分の事についてより深く知ることができました。また、今回初めて自分が作ったチラシや報告書が使用され、それに対してスタッフやボランティアの方からお褒めの言葉をいただいたことで、自分の持っている能力と貢献できる場があることを実感することができました。

今後の大学生活では、苦手を克服しつつ、パソコンスキルやチラシ作成など長所をもっと伸ばしていこうと思いました。



また、インターナショナルカフェやフェアトレードセミナーで色々な話を聞いてきて、まだまだ無知であることを改めて感じ、世界について、フェアトレードについてもっと勉強しようと思いました。英語に関しても、一回で通じなかった時に、もどかしさや悔しさを感じて、スラスラ話せるようになりたいとより強く思うようになったため、努力しようと思います。そして、インターン中に伺った色々な方のお話を参考に今後の進路について真剣に考えようと思います。

《インターン活動について（迫口さん）》

チラシ作成、SNS 報告の文章・写真・表紙、イベントの準備・片付け、くらしのにほんごのお手伝い、データ入力を主にしていました。苦手な仕事があって、最初は不安で少し憂鬱でした。しかし、温かい人たちに支えられて三か月過ごせたため、アドバイスをもらって修正を繰り返し、苦手だった仕事も好きになりました。様々な人と接することで、友好関係も広がり、アルバイトをするよりも世の中や人、仕事のことを知ることが出来ました。

《インターンを終えて》

以前より自分について知ることが出来ました。得手不得手や性格、人との違いなど、これから生きていく上で理解しておくべき自分のことを知ったことで、将来の仕事や学習・生活の仕方を見つめ直そうと思いました。また、評価をもらうことが自分のモチベーションになっていることが分かり、新しい自分を見つけました。今後の目標としては、努力すればある程度のことは人並みにはできるようになることが分かったため、人並みの時間で出来るようになりたいと思いました。時間をかけてゆっくりしてしまう節があるため直したいです。また、話すのが苦手なことは、話したいことが後から出てきて何から話せば良いか分からなくなってしまうことが原因だとインターンを経験して分かりました。苦手や不得意の原因のを見つけ方も分かったため、原因も見つけつつ改善できるように繰り返し挑戦をしていきたいです。そして3月に予定しているグローバルワークキャンプでも国際交流会館にはお世話になるため、インターンが終わってからも交流が続くことを嬉しく思っています。三か月間ありがとうございました。





世界を知る

本項では「世界を知る」をテーマに JICA(独立行政法人国際協力機構) デスク熊本や、国際交流・国際協力分野で活躍している方、海外で生活している方々の協力を得て、日本で生活する私たちが日ごろ知ることが出来ない世界の興味深い状況をご紹介します

「フランスからこんにちは！」

柳 美幸氏 (元熊本市国際交流振興事業団スタッフ)

世界で最も多くの観光客が訪れる国、フランス。フランスと言えば、皆さんは一番に何を思い浮かべますか。パリのエッフェル塔や凱旋門、世界文化遺産のモン・サン・ミシェル…。今やこれらの場所は、フランスの代名詞とも言える世界でも有名な観光スポットですね。

現在私は、パリからは北西へ車で約2時間、電車で約1時間半のルーアンという町に住んでいます。今回は、パリからモン・サン・ミシェルまでへの通過地点ともなるこの町を中心に、皆さんにフランス現地の状況をお伝えしたいと思います。

ルーアンで印象的なのは、“コロバージュ”と呼ばれる可愛らしい木組みの家。中世の街並みが今もそのまま残っており、印象派の画家クロード・モネが描いた大聖堂やこの街のシンボルの大時計をはじめとする歴史的建造物も数多く存在しています。



ルーアン大時計

フランスと言えば美味しいワインの宝庫ですが、ルーアンのあるノルマンディー地方では林檎から作られるシードルやカルバドスが有名です。また、酪農地帯であることから良質なバターやクリーム、チーズなどの乳製品が作られ、それらを用いた料理は格別です。牡蠣や帆立といった新鮮な魚介類も豊富で、ここでは気軽に楽しむことができます。フランスでは毎週末に各地でマルシェが開かれるのですが、朝からマルシェへ出かけ、その後食事を楽しみ、家族や友人とゆっくり過ごすというのが、どこにでも見られる現地のライフスタイルです。

地産地消に根付いた新鮮で美味しいものを食すという贅沢が当たり前のように生活の中にあることは、フランス生活の魅力の一つだと思います。



展望台から見渡すルーアンの街並み

ルーアンは別名「百の鐘の街」とも呼ばれ、街の中にたくさん教会があり、朝 8 時から夜 22 時まで 15 分毎に鐘の音が鳴り響きます。そんなに鳴ってうるさくないのかと心配されそうですが、鐘の音は生活の中に音楽を奏でてくれるような存在で、この街に活力を与えているようにも感じられます。通りは毎日のように英語やスペイン語など、フランス語以外にも様々な言語が飛び交い多くの観光客で賑わっています。日本では新型コロナ感染拡大の第 7 波と言われていた昨年の夏は既に、毎日数人のガイドが団体を率いて街中を案内する姿や、街を巡回するトロツコが観光客を乗せて一日に何度も往復し、街に以前の活気が戻りつつあるのを感じると同時に、日本とフランスの状況に大きなギャップを感じたものでした。



ルーアン大聖堂

ロシアによるウクライナ侵攻に関して、フランス政府はウクライナ難民を迅速に受け入れ、積極的に支援をしていることが報道されています。現在ではルーアンでもウクライナの人々を頻繁に見かけるようになりました。日本には感じなかったであろう物理的な距離の近さとヨーロッパ間の連帯を目の当たりにしています。

フランスの治安について、何処の国においても言える事ですが、夜遅くに一人で出歩くことはお勧めしません。また、スリや盗難は日常的にあることです。観光で来る場合には目を付けられやすいので、特に注意が必要です。フランスはデモやストライキが頻繁にあり、交通機関などに影響が出ることもしばしばありますが、普通に生活していて身の危険を感じることはほとんどありません。

今年はラグビー世界大会、2024 年にはオリンピックがフランスで開催されます。世界から更に注目を集める国となることは間違いありません。皆さんも観光大国と言われるフランスの魅力を是非現地へ来て実感してみてください。お待ちしております！

ちょっと日本語

正月また正月またまた正月

NPO 法人日本語サポートあさ
小川ひろみ

この原稿を書いているのは1月下旬。正月休みが終わり、学校に戻ってさあ勉強と思いきや！日本語の教室では自国の正月準備で浮足立つ学生たちがいます。中国、ベトナムの学生たちにとっては旧正月こそが正月。2023年は1月22日です。毎年変わります。ベトナムや中国の学生が多い日本語学校ではベトナムのテト、中国の春節のために赤や黄色の飾りつけをすることもあります。そして、旧正月が終わったら、4月は仏歴でタイの正月。最近ではネパールの学生も多く、ネパールは正月より秋のヒンドゥー教のお祭りダサインで盛り上がり必須です。

インドネシア他、イスラム教徒ならラマダン(断食)明けが最大の年中行事です。2023年は4月下旬ですが毎年変わります。ということで、多国籍多文化の日本語の教室では年に何度も正月や盛大なお祭りがあり、先生たちはその度に、「ここは日本！あなたたちの正月やお祭りでは騒ぎません。学校は休みではありません。休んだら欠席！」と年に何度も世界の正月やお祭りに直面し声を張り上げています

☆☆ 2023 年度 賛助会員募集！ ☆☆

当事業団では賛助会員を募集しています。私どもの活動にご理解とご支援をいただくとともに、更なる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。会員の方々には事業団の機関紙「ニュースターくまもと」の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。ご協力いただける方はお手数ですが下記連絡先までお問合せいただきますようお願い申し上げます。

《個人会員》 一口 2,000 円 《団体会員》 一口 10,000 円

私たちは熊本市の国際交流活動を応援しています *令和4年11月10日までにご加入いただいた団体会員の皆さま(敬称略)

熊本日独協会、国立大学法人熊本大学

◇◇事業団 SNS のご紹介◇◇

事業団SNSのご紹介 ~事業団が使っている SNS をご紹介します！是非アクセスしてみてくださいネ！~

Instagram		Facebook			Twitter	Youtube	相談プラザ
							
メイン	外国人向け	メイン	外国人向け	相談プラザ			



《お問合せ・連絡先》

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

熊本市中央区花畑町4番18号(熊本市国際交流会館)

(休館日)第2・第4月曜日、年末年始(12月29日~1月3日)

(TEL)096-359-2121 (FAX)096-359-5783

E-Mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp

URL: <https://www.kumamoto-if.or.jp>